

合唱団への期待

顧問

今年も定期演奏会のシーズンになりました。毎年今頃になると、ああまた一年が経ったんだな、という感慨と今年はどんな演奏をしてくれるのだろうか、という期待とが交錯して気持がわくわくしてくれるのを覚えます。合唱団も、佐々木先生の御指導を受けて十年近く経ち、分離唱もすっかり定着したようです。美しいハーモニーを聴き、そしてまた一緒に唱うごとに、ああやっぱり合唱団の顧問をやってきて良かった、と思います。しかし、また一方では、「昨年も、一昨年も素晴らしい演奏会だった。今年は、はたしてそれ以上の演奏が出来るのだろうか?」という不安がないわけではありません。あれほどのハーモニーを土台にして今一步の前進を期待するのは欲目というものでしょうか、ともあれ、この私の不安が杞憂に終り、更なる飛躍につながる演奏会となることを期待して止みません。

私達の合唱

副理事

「え、あの人が合唱団?」そんな人ばかりが90余名。音痴の人、楽譜の読めない人、一人では決して歌うことは出来ないし、美しい声の持主でもない仲間達。そうです、私たちはこんな仲間の集まりなのです。

しかし、佐々木先生と分離唱との出逢い——こんな私達でも、心を一つにして聴き合えば美しいハーモニーを生み出せることを知りました。単に音を聞くだけでなく、お互いの心を聴き、心で言葉を語ることによって音楽の真の歓びも知りました。そして、頭に知識を詰め込むことばかりやってきて麻痺していた感覚が目覚め、あの子供の頃の純粋な素直な心が戻ってきたことに気づきました。私自身、入団当時、どうしてこの人達はひとことでこんなに真剣になれるのだろうと不思議に思いました。その頃の私は心にも服を着ていたのです。その服を一枚一枚そつとはがしてくれて、裸になつた私の心をやさしく温かく包んでくれたハーモニーの仲間たち。このハーモニーのすばらしさを、少しでも多くの方に感じていただけたらと心から願っています。